

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」における工程表

申請担当大学名	岡山大学
連携大学名	愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、徳島文理大学、広島大学、松山大学、山口大学
事業名	全人的医療を行う高度がん専門医療人材養成

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<p>本事業の全体の目的は、がん医療を取り巻く状況変化に伴い生まれる多様な新ニーズに対応するがん専門職医療人の人材育成である。中国・四国地方の11大学が参画する広域連携組織を構築し、eラーニングなどを活用して各大学の特色を活かした教育資材を中国・四国域内統一カリキュラムとして共有することで、がん患者数の増加、治療の進歩に伴う高齢者医療、ゲノム医療、希少がん、小児・AYA世代がんに対応できる卓越したがん専門職医療人の人材育成を行う。高度な技能、知識を持ちがん医療の現場で活躍できる能力を養うとともに、国際的人材育成に向けた英語教育、海外施設との交流、指導者の教育能力を高めるためのFD、チーム医療研修等を実施する。またその教育の成果を評価し、改善することのできる永続的な連携組織へと成長させる。本事業修了者が中国・四国地方で臨床実践することにより、多様な新ニーズに対応し、最新のがん医療を国民に提供できる中国・四国全体の医療環境を整備する体制を構築することで、高度に標準化された理想的ながん治療の均てん化と普及を目標とする。</p>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
インプット・プロセス(投入、入力、活動、行動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース新規受入:42名</li> <li>メディカルスタッフコース新規受入:23名(内看護師:5名、薬剤師8名、医学物理士4名、栄養士6名)</li> <li>インテンシブコース新規受入:905名</li> <li>チーム医療合同演習実施:学生・教員参加者数 50名以上/年(全連携大学参加)</li> <li>eポートフォリオによる専門資格取得支援 3名以上/年</li> <li>アジア地域とのFD研修交流(国際貢献):医療人受入1名以上/年</li> <li>指導者養成プログラム(FD):国内・海外先進施設への派遣 5名/年</li> <li>多職種参加のキャンサーボード開催 90回以上/年</li> <li>コミュニケーション技術研修会開催 2回以上/年</li> <li>国際セミナー等の開催 4回以上/年</li> <li>小中高校生対象の医療教育の実施 10回以上/年</li> <li>広報活動(HP更新80回/年、定期刊行冊子発行 3回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース新規受入:42名</li> <li>メディカルスタッフコース新規受入:29名(内看護師:10名、薬剤師9名、医学物理士4名、栄養士6名)</li> <li>インテンシブコース新規受入:1,027名</li> <li>チーム医療合同演習実施:学生・教員参加者数 50名以上/年(全連携大学参加)</li> <li>eポートフォリオによる専門資格取得支援 3名以上/年</li> <li>アジア地域とのFD研修交流(国際貢献):医療人受入1名以上/年</li> <li>指導者養成プログラム(FD):国内・海外先進施設への派遣 5名/年</li> <li>多職種参加のキャンサーボード開催 90回以上/年</li> <li>コミュニケーション技術研修会開催 2回以上/年</li> <li>国際セミナー等の開催 4回以上/年</li> <li>小中高校生対象の医療教育の実施 10回以上/年</li> <li>広報活動(HP更新80回/年、定期刊行冊子発行 4回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース新規受入:41名</li> <li>メディカルスタッフコース新規受入:28名(内看護師:9名、薬剤師9名、医学物理士4名、栄養士6名)</li> <li>インテンシブコース新規受入:1,027名</li> <li>チーム医療合同演習実施:学生・教員参加者数 50名以上/年(全連携大学参加)</li> <li>eポートフォリオによる専門資格取得支援 3名以上/年</li> <li>アジア地域とのFD研修交流(国際貢献):医療人受入1名以上/年</li> <li>指導者養成プログラム(FD):国内・海外先進施設への派遣 5名/年</li> <li>多職種参加のキャンサーボード開催 90回以上/年</li> <li>コミュニケーション技術研修会開催 2回以上/年</li> <li>国際セミナー等の開催 4回以上/年</li> <li>小中高校生対象の医療教育の実施 10回以上/年</li> <li>広報活動(HP更新80回/年、定期刊行冊子発行 4回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース新規受入:43名</li> <li>メディカルスタッフコース新規受入:29名(内看護師:10名、薬剤師9名、医学物理士4名、栄養士6名)</li> <li>インテンシブコース新規受入:1,027名</li> <li>チーム医療合同演習実施:学生・教員参加者数 50名以上/年(全連携大学参加)</li> <li>eポートフォリオによる専門資格取得支援 3名以上/年</li> <li>アジア地域とのFD研修交流(国際貢献):医療人受入1名以上/年</li> <li>指導者養成プログラム(FD):国内・海外先進施設への派遣 5名/年</li> <li>多職種参加のキャンサーボード開催 90回以上/年</li> <li>コミュニケーション技術研修会開催 2回以上/年</li> <li>国際セミナー等の開催 4回以上/年</li> <li>小中高校生対象の医療教育の実施 10回以上/年</li> <li>広報活動(HP更新80回/年、定期刊行冊子発行 4回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース新規受入:40名</li> <li>メディカルスタッフコース新規受入:28名(内看護師:9名、薬剤師9名、医学物理士4名、栄養士6名)</li> <li>インテンシブコース新規受入:1,027名</li> <li>チーム医療合同演習実施:学生・教員参加者数 50名以上/年(全連携大学参加)</li> <li>eポートフォリオによる専門資格取得支援 3名以上/年</li> <li>アジア地域とのFD研修交流(国際貢献):医療人受入1名以上/年</li> <li>指導者養成プログラム(FD):国内・海外先進施設への派遣 5名/年</li> <li>多職種参加のキャンサーボード開催 90回以上/年</li> <li>コミュニケーション技術研修会開催 2回以上/年</li> <li>国際セミナー等の開催 4回以上/年</li> <li>小中高校生対象の医療教育の実施 10回以上/年</li> <li>広報活動(HP更新80回/年、定期刊行冊子発行 4回/年)</li> </ul>
定量的なもの					

	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する講義の設置</li> <li>在宅訪問看護研修セミナーのプログラム作成</li> <li>拠点間の枠組を越えた協力体制構築:全国がんプロe-learningクラウドへの参加、全国がんプロ協議会緩和医療部会、他拠点との講師相互派遣・演習や講義の合同実施</li> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する講義の実施</li> <li>在宅訪問看護研修セミナーの実施</li> <li>CNSのリカレント教育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点間の枠組を越えた協力体制構築:全国がんプロe-learningクラウドへの参加、全国がんプロ協議会緩和医療部会、他拠点との講師相互派遣・演習や講義の合同実施</li> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する講義の実施(継続)</li> <li>在宅訪問看護研修セミナーの実施</li> <li>CNSのリカレント教育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点間の枠組を越えた協力体制構築:全国がんプロe-learningクラウドへの参加、全国がんプロ協議会緩和医療部会、他拠点との講師相互派遣・演習や講義の合同実施</li> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する講義の実施(継続)</li> <li>在宅訪問看護研修セミナーの実施</li> <li>CNSのリカレント教育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点間の枠組を越えた協力体制構築:全国がんプロe-learningクラウドへの参加、全国がんプロ協議会緩和医療部会、他拠点との講師相互派遣・演習や講義の合同実施</li> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する講義の実施(継続)</li> <li>在宅訪問看護研修セミナーの実施</li> <li>CNSのリカレント教育の実施</li> </ul>	
アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>インテンシブコース修了者数:900名</li> <li>eラーニングコンテンツの蓄積(80件以上/年)</li> <li>本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:48回、3,394名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース修了者数:25名</li> <li>メディカルスタッフコース修了者数:19名(内看護師:7名、薬剤師0名、医学物理士5名、栄養士7名)</li> <li>インテンシブコース修了者数:1000名</li> <li>eラーニングコンテンツの蓄積(80件以上/年)</li> <li>本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:54回、3,584名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース修了者数:30名</li> <li>メディカルスタッフコース修了者数:19名(内看護師:7名、薬剤師0名、医学物理士5名、栄養士7名)</li> <li>インテンシブコース修了者数:1000名</li> <li>eラーニングコンテンツの蓄積(80件以上/年)</li> <li>本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:54回、3,884名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース修了者数:30名</li> <li>メディカルスタッフコース修了者数:20名(内看護師:7名、薬剤師1名、医学物理士5名、栄養士7名)</li> <li>インテンシブコース修了者数:1000名</li> <li>eラーニングコンテンツの蓄積(80件以上/年)</li> <li>本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:54回、3,584名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師コース修了者数:30名</li> <li>メディカルスタッフコース修了者数:20名(内看護師:7名、薬剤師1名、医学物理士5名、栄養士7名)</li> <li>インテンシブコース修了者数:1000名</li> <li>eラーニングコンテンツの蓄積(80件以上/年)</li> <li>本事業に係るシンポジウム・セミナーの開催数:55回、3,684名</li> </ul>
	定性的なもの					
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得者29名(がん薬物療法専門医3名、がん治療認定医8名、外科専門医4名、消化器外科専門医5名、放射線治療専門医1名、緩和医療専門医1名、がん看護専門看護師5名、医学物理士1名、がん専門薬剤師1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得者28名(がん薬物療法専門医3名、がん治療認定医8名、外科専門医4名、消化器外科専門医5名、放射線治療専門医1名、緩和医療専門看護師5名、医学物理士1名、がん専門薬剤師1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得者29名(がん薬物療法専門医3名、がん治療認定医8名、外科専門医4名、消化器外科専門医5名、放射線治療専門医1名、緩和医療専門看護師5名、医学物理士1名、がん専門薬剤師1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得者28名(がん薬物療法専門医3名、がん治療認定医8名、外科専門医4名、消化器外科専門医5名、放射線治療専門医1名、緩和医療専門看護師5名、医学物理士1名、がん専門薬剤師1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得者29名(がん薬物療法専門医3名、がん治療認定医8名、外科専門医4名、消化器外科専門医5名、放射線治療専門医1名、緩和医療専門医1名、がん看護専門看護師5名、医学物理士1名、がん専門薬剤師1名)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>全人的医療におけるチーム医療やコミュニケーション技術の向上</li> <li>市民公開講座などの各種セミナー/小中高校生へのがん教育による社会へのがん知識の普及・啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する専門的な医療人の養成</li> <li>全人的医療におけるチーム医療やコミュニケーション技術の向上</li> <li>市民公開講座などの各種セミナー/小中高校生へのがん教育による社会へのがん知識の普及・啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する専門的な医療人の養成</li> <li>全人的医療におけるチーム医療やコミュニケーション技術の向上</li> <li>市民公開講座などの各種セミナー/小中高校生へのがん教育による社会へのがん知識の普及・啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する専門的な医療人の養成</li> <li>全人的医療におけるチーム医療やコミュニケーション技術の向上</li> <li>市民公開講座などの各種セミナー/小中高校生へのがん教育による社会へのがん知識の普及・啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲノムやライフステージ、希少がんに関する専門的な医療人の養成</li> <li>全人的医療におけるチーム医療やコミュニケーション技術の向上</li> <li>市民公開講座などの各種セミナー/小中高校生へのがん教育による社会へのがん知識の普及・啓発</li> </ul>

### ③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	本拠点においては各大学が連携し、各大学の得意とする分野でのリーダーシップを発揮してWGを率いてカリキュラム設計を行う。各大学はリーダーを務める分野で責任を持って優れたカリキュラムを設計し、他大学に提供することで大学横断的な共有体制が整えられる。指導者に対するFD研修を協力して行うことにより、全ての大学で共通の理念のもとに共通のプログラムが進行することになる。定期的に一同に介し委員会を開催し、拠点内での広報活動により情報を共有することで大規模なコンソーシアムとして一体化し、円滑に運営することが可能となる。各大学の事情を考慮しつつ、拠点全体の事業や各大学独自の事業の継続性を十分担保しながら、地域の医療体制を一段と充実すべく事業体制を確立していく。
②	厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行いつつ、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。	様々な事業の進捗状況は岡山大学ががんプロ事務局に逐一報告され、情報は中央管理のうえ連携大学に広報される。各事業はその都度評価をし改善を行うが、がんプロ事業全体の評価は毎年患者代表を含む識者からなる外部評価委員会において評価される。その評価に基づき事業の見直しを行い、新たながん医療のニーズに対応した事業計画を策定する。養成されるがん専門職については、連携医療施設を巻き込んでキャリアパスを示し、同時に地域に於ける医療環境の改善に努める。入学人数、養成数を年度ごとに明らかにし、コンソーシアム全体でアウトプットを高める方策を講じる。多数の大学の参画する事業であることから統一感をもって事業を推進するためにも各大学間の連絡、情報共有を密にし、カリキュラム運営委員会を通じて積極的な事業展開を勧奨する。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	各大学が行う講演会をはじめとする事業や専門医療職の育成などの成果は可視化しHP、メディアなどを通じて地域や社会に対して多角的に公知活動を行う。各事業の計画の情報は事務局において管理され連携各大学に提供される。本拠点における全ての事業は各連携大学において共有され、公開され参加も奨励される。本拠点に於ける取り組みは他拠点に対しても積極的に情報発信され、e-learningコンテンツや「全人的医療」の取り組みについても他大学に情報提供する。緩和医療部会などの活動を通じて全国のがんプロ拠点が一体となった専門職養成の取り組みを行う。

### ④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
「全人的医療」というプラン全体のキーワードが、各大学での取り組みにどのように反映されるのか、また大学間での具体的な連携がどのように行われるのかをより明確にする必要がある。	「全人的医療」は本拠点に於ける教育上の共通の理念として共有される。各大学に於けるコンソーシアム共通の多職種カリキュラム編成は、この理念を基に設計されている。初年度においては共通の理念をより強固なものにするために、指導者教育の一環として、「全人的医療」のワークショップを7月に開催する。これには「全人的医療」を医学教育の理念としているカナダ、McGill大学のTom Hutchinson教授を招いて指導者教育を行う。当該の講演は収録し教材として各大学におけるWPG基本教育に利用される。さらに次年度からはFD研修としてMcGill大学に各大学から指導者を派遣し、指導法の研修を行う。帰国後はタスクフォースを形成しe-learning教材をはじめとする教育資材の開発、各連携大学へ派遣指導を行い「全人的医療」の下に連携する。
新規性、独創性については一般的な内容に留まっており、より地域性を活かした特長を訴える内容とすべきである。	中国・四国地方は人口過疎、高齢化の地域が多くこれらの地域でのがん医療は高齢者、在宅医療の充実、最先端医療への困難なアクセスなどがキーワードとなる。高齢者ががん医療は地域を問わず我が国共通の問題であり、全ての大学において力を入れて取り組む予定である。在宅医療においては特に訪問看護師の教育プログラムを行う予定としており、全国の大学からも期待されている。様々な最先端医療の分野においては拠点内大学の間、さらには他拠点との間で連携を行うことで成果を効果的に生むことのできるプログラムを行う。
重複領域では絞り込みを行い、大学間の教員相互乗り入れや教育資源の共有・有効活用などについても検討する必要がある。	高度に専門化された分野においては全ての大学で広範な分野の指導者を網羅し対面で教授することは困難である。このためコンソーシアム参加大学、あるいは外部から各分野の専門家を集め(教員相互乗り入れ)WGを形成しカリキュラム設計を行い、e-learningコンテンツとしての教育資材を開発し(教育資源の共有、有効活用)教育をおこなう。全国e-learningクラウド、各学会のコンテンツなども積極的に活用して優良なコンテンツを確立する。さらに、希少疾患や小児がんの診療、研究、教育においてはコンソーシアム内のバイオバンクの共通利用、データ共有、他大学での診療参加、ポートフォリオの充実を積極的に進める。
インテンシブコースでは、e-learning やセミナー、講習などが企画されているが、履修効果を測定し、習得度を評価することを含めるべきである。	e-learningでは講義の評価と共に小テストを行って履修効果と習得度を評価しているが、さらにセミナー、講習などにおいてもアンケートを実施しイベントの評価と共に履修効果、習得度の評価をしたい。この取り組みは経年的に行いカリキュラム編成委員会において報告し、改善の取り組みを行う。
補助期間終了後も本事業を確実に継続するための計画を具体的に検討する必要がある。	各大学において共通の事業に対する予算の措置、人件費等の予算措置等、本事業を確実に継続するための合意がすでになされている。